

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業の在り方を求めて

－数学科における課題を選択し自立的に学び合う授業の提案－

◎本研究の成果物

- 1 今日の課題…単元末に至る授業で提示した課題 (1-1 ~ 1-3)
- 2 単元末課題…単元末の授業で提示した課題 (2-1 ~ 2-3)
- 3 振り返りシート…毎時の振り返りシート (3)

1 「今日の課題」について

50分間の授業の一部（20分間程度）を生徒に委ね、生徒が自ら取り組みたいように指導者は下記のような視点で作成した学習課題を「今日の課題」として提示しました。

「単元で学んだ知識や技能を生かす必要がある」「解が一つに定まらない」「多様な考え方ができる」ことを考え、生徒がどのように考えて解を導き出したのか、他者と考えを説明し合う必然性が生まれることをねらいとした学習課題。

2 「単元末課題」について

単元末の授業では50分間のほぼ全ての時間を生徒に委ね、学習方法に加えて、学習課題を生徒自身が選択できる授業としました。指導者は下記のような視点で作成した学習課題を「単元末課題」として提示しました。

「既習事項が活用できる」「日常や社会生活で出会う課題に近付ける」「数学的な表現を用いることができる」ことを考え、難易度が異なる複数の学習課題を設定し、生徒が自分の理解度に合わせて学習課題を選択して学びを進めることをねらいとした学習課題。

3 「振り返りシート」について

生徒自身が1時間の自分の学びについて「何を学んだか」といった学習内容だけでなく、「どのように学んだか」といった学習方法も振り返ることができるようにしました。学習方法を選択し、他者と協働的に学ぶことでどのように学びが広がり深まったかを振り返る場をつくり、生徒一人一人が自分に適した方法を選択することにつながると考えました。

<振り返りシート(例)>

			何を学んだか、どのような考え方を学んだか <記述内容> ・わかったこと、学んだこと ・どのように考えて問いや課題を解決したか ・学んだことは学校や家などどのような場面で生かせるか	どのように学んだか、何を使って考えたか <記述内容> ・友だちにヒントをもらって考えることができた ・教科書を見て取り組むことができた ・GIGA端末やノートなど、過去の学びを見て考えをまとめることができた	グループや他者との学びの中でどのように学んだか <記述内容> ・友だちが理解できるように考えて説明した ・友だちの説明を聞いて理解が深まった ・説明することで自分の考えを確かなものにできた ・自分で気づきと考える解決した
月	日	()	何を学んだか	どのように学んだか	

◎成果物を活用するために ～学習方法や学習課題を自己選択できる授業デザイン～

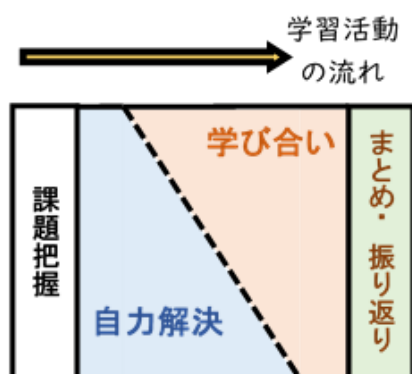
個別最適な学びと協働的な学びとなる授業では、生徒一人一人が学習の定着度や理解度、興味・関心に応じて課題を選択し、自分のペースで他者と協働しながら学びを進めていくことが大切であり、本研究では生徒自身が日々の授業の中で学習方法を選択して学びを進められるよう下図のような【授業デザイン】で実践を行いました。

指導者は「自力解決」と「学び合い」の時間を区切ることなく、生徒が学習方法を選択し数学的活動を通して課題解決を行い、授業の終末には学習について振り返ることで、生徒自身に適した学習方法で学習活動を進められるようにしていきました。そして、単元末の授業では、自分に適した「数学の事象から問題を見だし解決する」ような課題や、「日常の事象や社会の事象から問題を見だし解決する」ような課題を選択できるよう単元の設計をしました。

指導者が授業デザインを考え、課題の提示や振り返る場の設定や授業内での個別支援など適切な準備と支援を行うことで、生徒が自分に適した学習方法について考え、数学的な見方・考え方を働かせ課題解決する力を伸ばしていく実践となりました。

【授業デザイン】

<学習時間の組立て>



<単元の中での位置付け（例）>

